

紙上診察室

抗てんかん薬と奇形 男女で異なる影響

三十歳の息子は、小学校四年生のときに、けがが原因で外傷性てんかんを発症しました。以来、約二十年間抗てんかん薬(フェノバル)を医師から処方され、服薬を続けています。日常生活に異常はありませんが、子どもを持つことをためらっています。私としては孫の顔を見たい気持ちがあります。薬は子どもにどの程度影響するのでしょうか？

(南さつま市・S)

があるので、妊娠中も抗てんかん薬による治療を継続することが一般的です。最近では、抗てんかん薬による先天奇形の発生を少しでも減少させる目的で、妊娠を

という後天的な原因がはつきりしている場合は遺伝しません。そのほか、脳腫瘍、髄膜炎、脳卒中などの後天的な原因によるてんかんも遺伝しません。

問 抗てんかん薬ほどの程度飲み続けなければならぬのでしょうか？

答 フェノバルはてんかんの抑えるお薬です。脳波異常の程度や発作の頻度によっては、抗てんかん薬を一生生涯飲み続けなければならぬ場合もあります。一方、これまでも何年間も発作がなく、脳波でもてんかん波形が出ていない

ければ、医師の指示の下、徐々に使用量を減らして中止することもあります。

問 抗てんかん薬が子どもに与える影響は？

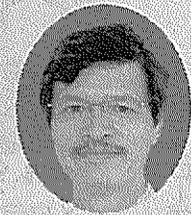
答 患者さんが男性の場合と女性の場合では異なります。患者さんが女性の場合、抗てんかん薬を妊娠初期に服用していると、先天異常の子どもが生まれる可能性が増えることが指摘されています。通常の妊娠でも奇形の発生頻度は2-3%ですが、抗てんかん薬で治療していた場合、その頻度が2-3倍になると報告されています。

しかし、逆にいえば、十人中九人以上が、障害のない健康な赤ちゃんを出産できるわけです。また、大きなてんかん発作は、母親にも胎児にも重い障害を引き起こす可能性

希望される患者さんには、ピタミンの一種である葉酸を服用することがすすめられます。

患者さんが男性の場合、抗てんかん薬を服用していたために子どもが奇形を持って生まれる可能性が高くなるという報告はありません。これは女性の場合と大きく異なる点です。薬で精子が障害を受けた場合は、受精の際に淘汰を受けてしまい、その精子は受精には関与しないからだと考えられています。

有田 和徳教授 鹿児島大学病院脳神経外科



問 てんかんは遺伝するのでしょうか？

答 遺伝するてんかんはごく一部で、数パーセントにすぎません。相談者の息子さんの場合のように、頭部の外傷

くらし
金曜日

健やか

相談は詳しい症状と病歴に住所、氏名、年齢、性別、電話番号を書いて文化部「紙上診察室係」まで。紙面では匿名で紹介します。あて先はページ下を参照してください。